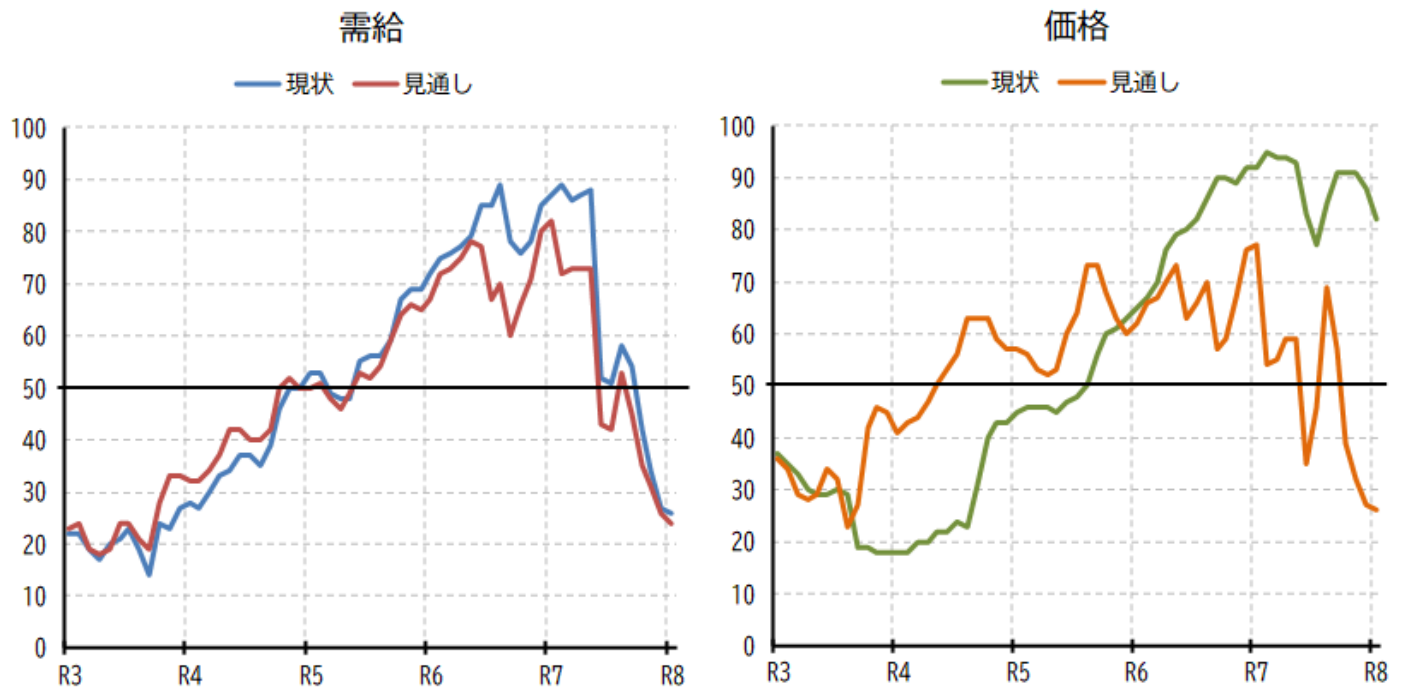


# 緩和感・先安観は依然継続 = 1月の米穀機構DI



米穀機構は2月5日、1月のDIを公表した。

(米取引関係者の判断に関する調査結果 = 良否分岐点は「50」)

需給DIは現状が▲1ptの「26」、向こう3か月の見通しも▲2ptの「24」と5か月連続で低下した。また、価格DIも現状が▲6ptの「82」、見通しは▲1ptの「26」と低下が続く。

依然として見通しはコロナ禍真っ只中の水準まで落ち込んでおり、「1月は12月よりも需給が緩んでいるものの米価は相変わらず高い——が、2~4月は（前月時点の想定よりも）需給がさらに緩み、米価も下落する見通し」ということになる。

2月（この時点では来月）の業態別見通しに目を向けると、縁故米明けで1月よりも販売が回復する見方が卸・小売とも強まっているものの、前年の2月と比べると低調な販売となる見通しだ（卸41／小売34）。

			販売数量		価格		在庫量	
			1月	前回差	1月	前回差	1月	前回差
現状 (今月)	前月比	生産者	42	± 0	43	▲ 6	30	▲ 4
		集出荷	43	▲ 2	41	▲ 6	41	▲ 15
		卸	19	▲ 37	27	▲ 15	47	▲ 6
		小売	24	▲ 23	47	▲ 8	53	▲ 2
	前年 同月比	生産者	43	+ 1	76	▲ 6	61	▲ 5
		集出荷	21	▲ 5	78	▲ 12	76	▲ 10
		卸	31	▲ 4	68	▲ 15	74	± 0
		小売	27	▲ 1	81	▲ 5	66	+ 1
見通し (来月)	前月比	生産者	47	▲ 1	42	▲ 3	30	▲ 4
		集出荷	54	+ 6	40	▲ 2	40	▲ 5
		卸	57	+ 22	22	▲ 11	37	▲ 3
		小売	57	+ 24	38	▲ 5	49	+ 6
	前年 同月比	生産者	42	▲ 6	71	▲ 7	61	▲ 2
		集出荷	29	▲ 6	74	▲ 1	76	▲ 4
		卸	41	+ 5	56	▲ 16	64	▲ 2
		小売	34	+ 2	67	▲ 5	66	+ 5

取引関係者がDIを判断する際、主に考慮した要因

